さがみ野1号踏切改良工事進捗状況は？

海友ク　鈴木惣太

問：相鉄線と市道26号線が交差するさがみ野1号踏み切りは、柏ケ谷小学校の子どもたちの通学路になっていましたが、今は危険であるということから、コースが変更されています。

しかし、下校した子どもたちは、自転車や徒歩でこの踏み切りを利用しています。また、大人も買い物や通勤に大勢の方が利用しています。

この踏み切りの改良工事については、踏み切りが非常に変則で、座間市側から2つの道路と市道26号線の3本の道路が踏み切りで交差するのと、踏み切りの角度に問題があるため、鉄道事業者と座間市と調整を図っていくとのことでしたが、その後の座間市側との協議の進捗状況について伺います。

答（市長）：座間市との境に位置する「さがみ野1号踏み切り」の改良工事については、自動車交通量が多い中、歩道が狭く、大変危険であることから、座間市と協力して、歩行者の安全性を向上するため、歩道整備に取り組んでいるところです。

安全確保が叫ばれるさがみ野１号踏切

現在の状況としては、座間市と「踏切道改良事業等に関する覚書」を締結し本市が事業主体となり、平成18年度から鉄道事業者等と協議を進め、踏み切り改良の基礎資料となる調査および設計を実施しています。今後の予定としては、平成19年度に改良工事に着手し、平成20年度の利用開始を考えています。

精神障害者の憩いの場今後の対応は

市政ク　太田祐介

問：精神障害者にとっての地域におけるよりどころであり、憩いの場として機能してきた精神障害者地域生活支援センターは、地域活動支援センターへ移行することとなり、消滅することとなっています。大和・座間・綾瀬の3市と共同で実施しているコンパスについては、新法に基づく移行形態を模索してきたと思いますが、現状と今後の対応について伺います。

答（市長）：19年3月までは、経過的精神障害者地域生活支援センターという形で存続が認められることとなり、継続して事業を行っています。こうした中、厚木に本拠を置く医療法人から地域活動支援センターを立ち上げたいとの申し出があり19年4月以降、市内に障害者の拠点を作る方向で準備が進んでいます。このセンターでは県の補助事業以外の事業を取り込み、発達障害児者の相談と居場所作りを行う方向です。県下でもあまり例がないことで大いに期待しています。

部活動振興会の会費について

共産党　志村憲一

問：市内中学校の部活動振興会については、現在、部活動入部者で部活動振興会に賛同できる人が年間2000円の会費を納めていますが、県下19市中、中学校部活動振興会として会費を納めさせているのは本市だけです。部活動は義務教育過程の学校での1つの事業であり、他市のように、公費で賄うべきで、税外負担は解消すべきと考えますが、市の見解を伺います。

答（教育長）：部活動が全生徒に課せられた教育活動ではないということや、部活動の運営経費が一律でなく差異があることから、すべて公費負担で行うことは難しいと考えます。また、生徒の意思による任意加入であるため、保護者負担という考え方でとらえるべき面もあると思います。

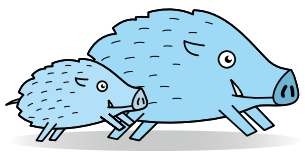
部活動振興会は、保護者や地域関係者と学校の三者が部活動を支えるシステムで、指導者の確保や広報活動等行っており、今後も積極的に支援していきたいと考えます。

市内交通危険箇所への対策は？

公明党　福地茂

問：市道34号線は杉久保小学校方面から杉久保コミセン方向に進むと、県道杉久保・座間線との交差点で車道の幅が急に狭くなります。小学校や中学校の通学路にもなっており、昨年には、当該交差点の角地にドラッグストアーがオープンし、交通量も増加しています。

児童の保護者からも交差点の信号設置について多くの要望が出ています。市の考えを伺います。



答（建設部長）：信号の設置について、県警本部は、車道の拡幅や歩行者の滞留場所の確保が不可欠としています。

県道については、厚木土木事務所が、地元に対して、拡幅の詳細計画の説明を行っています。

しかし地権者や周辺環境の問題から計画は休止扱いとなっています。県は平成17年度までに用地買収を行い暫定的に1メートル幅の歩道を整備しましたが拡幅計画実施の条件は揃っていません。市としても、県に対し拡幅や安全対策の強化を粘り強く要望したいと考えています。

子どもたちに平和教育推進を

ネット　三谷裕美子

問：昨年の夏、原爆被災者の方々から自らの体験を語っていただく機会を得ました。以前は市内の中学校で、子どもたちに被爆体験を話す機会もあったようですが継続されていないとのことです。日本がかつてどのような戦争被害にあったのか、また、近隣諸国へどのような残虐な侵略行為を行ったのか、歴史の事実を子どもたちへ教えてこなかったことが、いまだに、近隣諸国と信頼が築けない大きな要因であると思います。小中学校で、定期的に被爆者・戦争体験者の方に体験談を聞き、そこから学ぶ機会を作っていただきたいと思います。

答（教育長）：市内在住の被爆者や戦争体験者の方に子どもたちが体験談を聞くことは平和教育にとって大変有効であると考えます。また、学校の教科指導だけでなく、平和に関する催しや講演会等に児童生徒が積極的に参加できるよう各学校に呼びかけていきたいと考えています。

交通安全計画の具体策は？

海友ク　氏家康太

問：市の第8次交通安全計画には交通安全施策として、地域住民と一体となった安全な道路交通環境の整備、事故多発地点の重点整備、人優先の安全・安心な歩行空間の整備推進がうたわれています。また、17年度は交通安全の年ということで、これらの整備には特に心をはらい進めてきたことと思います。しかし、いまだ対応がされていない事故多発地点があるなど、地域住民の危険が解消されていない地域があります。今後どのように地域との連携を深めながら、安全な道路交通環境の整備、地域内における事故多発地点の重点整備、人優先の安全・安心な歩行空間の整備をすすめられるのかお尋ねします。

答（市長）：交通安全施策を行うにあたって、人命尊重の理念のもと、交通事故による死傷者の根絶を目指し、幼児から高齢者にいたるまでの年齢に応じ、段階的・体系的に取り組まなければならない重要な課題であると考えます。本市では、平成17年度は「安全・安心まちづくり」をテーマに掲げ、事故削減を図ってきました。また、海老名駅周辺では、歩行者、自転車の安全を確保するため、「あんしん歩行エリア」の区域が指定され、人優先の交通安全対策事業を推進しています。他の区域についても、事故発生率が比較的高い区域を定め、交通安全対策を検討していきます。さらに、平成19年度は「大好きえびな子どもの年」ということで、子どもの安全確保を進めるため通学路の安全対策を重点項目とし、通学路安全対策委員会や海老名警察署と連携し、危険箇所の抽出とその対策に取り組んでいきます。

南部バス試験運行大谷、杉久保、本郷へ

市政ク　飯田英榮

問：南部地域へのコミバス運行については富士ゼロックスバスの活用が困難であることから、現在のバスより小さな車両によるミニバス的な手法を用いて、19年度後半の試験運行実施を目指しているとのことでしたが、進捗状況を伺います。また、運行開始時期を早く市民に知らせることにより、運行時に多くの方が利用できるのではないかと思いますが、何月ごろを予定しどこの地域を運行しようとしているのか伺います。

答（市長）：試験運行の開始時期は、はっきり決まっていませんが、平成19年度後半の試験運行を目指しています。コースについては、大谷・杉久保・本郷地区の運行を検討しています。

答（まちづくり部長）：南部ルートの詳細、コースについては、現在検討中ですが、今後、神奈中・相鉄バス・市で構成する「バス交通担当者調整会議」で協議を行い、国や警察、自治会等と調整し実施していきたいと考えています。

南部地域の足として期待高まる